

ぼくのねこポー

ぼくのねこポーを読んで

2年 K・Tさん

「ぼくのねこポー」を読んで、わたしは心があたたかくなったり、かなしくなったりしました。とおるとポーがすぐに仲よしになったところでは、わたしもうれしくて、だっこしたらほっとするような気持ちになりました。でも、さいごにさよならをするときは、胸がぎゅっとして、なみだが出そうになりました。

ポーが塀の上にいたとき、わたしもねこをだっこしてみたいなと思いました。ふわふわで、きつとやさしい気持ちになれると想像しました。ポーがおるの家に来て、いっしょにすごしたときはとてもしあわせでした。でも森くんのねこだとわかったときは、とてもさびしかったです。本当に切ない気持ちで、心がじんわりしました。

そのとき、わたしは学校の友だちの徐さんのことを思い出しました。国に帰ることになり、ずつといっしょにいたかったのに、さよならをしなければならなくて、とてもかなしかったです。あの日のことを思い出すと、今でも胸がちくちくします。だから、とおるの気持ちがよく分かりました。

この本を読んで、やさしさが大事だと気づきました。とおるは自分がさみしくても、森くんにポーをかえしました。それはほんとうにえらいことだと思いました。また、待っているあいだに不安になるだけでなく、名前を考えたりして楽しくすごせることも学びました。わたしもさびしいときに、楽しいことを見つけないです。

これからは、家族や友だちを大切にしていきたいです。たとえば、お手つだいをしたり、ありがとうと言ったり、けんかをしてやさしい言葉で話したりしたいです。とおるのように正しいことができるやさしい人になります。毎日、不安になったりさみしくなった時ほど、少しずつがんばっていきます。